

介護退職ゼロ作戦!

フォーラム 2012

介護で退職しなくても いい社会を創ろう!

→ あなたの介護体験を社会の共有財産に

男性介護者と支援者の全国ネットワークは、「介護退職ゼロ作戦!」をスローガンに、介護で退職しなくてもいい社会環境創りを目指して、下記の通りフォーラムを開催します。皆さんのご参加をお待ちしています。裏面には全国各地のイベントを記しています。



日時・2012年11月11日(日)「介護の日」
13:30～16:00 (13:00～開場)

場所・立命館大学衣笠キャンパス (創思館303)

内容・(1)「介護退職ゼロ作戦!」基調報告
津止正敏 (男性介護ネット事務局長)
(2)私の体験と提言「リレートーク」
介護と仕事の両立課題の経験者より

※全体助言者: 池田心豪氏 (独立行政法人労働政策研究研修機構副主任研究員)
主催: 男性介護者と支援者の全国ネットワーク / 立命館大学人間科学研究所男性介護研究会

申し込み先・
問い合わせ先

男性介護者と支援者の全国ネットワーク /
立命館大学男性介護研究会
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学人間科学研究所気付
TEL & FAX. 075-466-3306
E-mail: info@dansei-kaigo.jp
(電話対応は毎週水曜日の13:00～16:00)

介護と仕事の
「体験と提言」
大募集!

「私の体験と提言」。介護と仕事の両立にいま直面している方・過去に両立に成功または退職した方、の体験と提言を募集します。

当日「参加して発表(10分程度)」できる人、「文書にて参加(2千字程度)」できる人、いずれも結構です。
締切: 2012年10月30日(火)

「私の体験と提言」申込書

送信先 FAX. 075-466-3306 E-mail: info@dansei-kaigo.jp

氏名 (フリガナ)	生年月日		年	月	日生(歳)
住所	(〒)				
	TEL ()		E-mail		
参加形態	①参加して発表 ②文書にて参加				
発表内容	①いま介護と仕事の両立に直面している ②過去に両立に成功 ③介護退職した ④その他()				

男性介護ネット第3回九州ブロック交流会

日時：2012年10月21日（日） 13:30～16:00
17:00～懇親会

場 所：リファレンス駅東ビル（福岡市）
内 容：①男性介護ネットの現状（報告・津止正敏）
②九州各県の介護者の交流 ③懇親会

連絡申込先：認知症の人と家族の会福岡支部
FAX. 092-771-8595

問 合 先：岡村敏治さん TEL. 090-9562-0039

男性介護者支援ひょうごネットワーク

日時：2012年11月1日（木） 10:00～16:00

場 所：宝塚ソリオホール（兵庫県宝塚市）
内 容：①午前中（ひょうごネット男性介護者の集い）
②午後（映画「毎日がアルツハイマー」、
関口監督を囲んでの交流）

連絡申込先：NPO 法人スマイルウェイ
TEL. 0797-26-7818

男性介護ネット全国交流会 in 長野

日時：2012年11月3日（土） 13:00～16:00
講演と交流 17:00～懇親会

場 所：長野県上田市
内 容：①介護者支援法の提言
（講師・日本ケアラー連盟代表理事牧野史子さん）
②男性介護ネット介護者交流「リレートーク」
③懇親会

連絡申込先：シルバーバック（居宅介護支援センター内）
TEL. 0268-29-1020 FAX. 0268-29-1021

北海道男性介護者の集い・交流会

日時：2012年11月17日（土） 13:30～16:30

場 所：札幌市男女共同参画センター 2F
内 容：「介護退職ゼロ作戦！」
男性介護ネット荒川不二夫代表他を
囲んでの交流と懇談会

連絡申込先：札幌市男女共同参画センター
TEL. 011-728-1222
FAX. 011-728-1229

第24回KYOあけぼのフェスティバル2012ワークショップ 「介護退職ゼロ作戦！ー介護と仕事との両立支援ー」

2012年11月23日（金・祝）
13:00～15:00

場 所：京都テルサ
内 容：基調報告▶介護と仕事の両立を考える（斎藤真緒立命館大学准教授）
富田秀信さん（男性介護者）・吉元恵美子さん（日本新薬人事部社員課長）
杉山久美子さん（ライフキャリアアカウンセリング）・コーディネーター津止正敏（立命館大学教授）

連絡申込先：京都府男女共同参画センター「らら京都」 TEL. 075-692-3433 / FAX. 075-692-3436

「介護退職ゼロ作戦」

樋口 恵子

〈男性介護ネット三周年記念式典へのメッセージ〉

男性介護者が増えた
三年前ネットワークが生まれ
男性介護者が語りはじめた
いろいろなことがわかった
男がその存在理由としてきた仕事を
介護は容赦なく奪う、ということ。
中堅管理職にたどりついたミスターA
定年退職金が楽しんだミスターB
資金繰りして店開きしたミスターC
中高年男子のささやかな未来を、介護は断ち切る
なんと多くのものが失われることか
私たちは自分の老いへの貯蓄と年金を
会社は長年投じた人材養成費とベテラン社員の能力を
そして国と自治体は、多額の所得税を、
社会保険料の財源を。
この年齢のサラリーマン男性が国の財政を
背負ってきたことを忘れてはならない。
本人と職場と国と自治体と保険団体と。
四方大損の介護離職

育児家事の延長線で介護を女が一身に背負っていたころ、
男は見えて見ぬふりで言った。
「だって、仕事があるもの」

介護量の激増と担い手家族の少子化で、介護の男性化がすすんだ
仕事を失い、慣れぬ家事介護、突然の孤立。

立ちすくむ男たちが、歩き出し語りはじめたとき世の中は気づく
膨大な数の女たち、介護を担う女たちも

男たちと同じものを失ってきたことを
男たちが介護から語るとき、世の中が変わる。

さあ、男も女も、介護退職ゼロ作戦
介護と仕事両立社会へ。

男たちと同じように女も仕事と、社会とともに生きる
介護する人が幸せでなかったら

介護される人も幸せになれません。